

東北大学 新入生歓迎セミナー

2009年4月7日 11:20～12:15



Motoko Kotani

講 | 師 | 紹 | 介

Profile

東京大学理学部数学科を1983年に卒業後、東京都立大学大学院理学研究科博士課程で微分幾何学を学び1990年理学博士(東京都立大学大学院理学研究科)を取得しました。1999年より東北大学大学院理学研究科助教授を経て現在、同研究科教授です。その間、1993年9月～1994年8月にドイツのマックスプランク研究所、2001年4月～11月にフランスの高等科学研究所(IHES)、2007年2月～3月、5月にイギリスのニュートン研究所他、多くの短期・中期海外研究歴があり、国際的に活躍しています。2005年に「離散幾何解析学による結晶格子の研究」によって、自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めた女性科学者に贈られる第25回猿橋賞を受賞しました。日本学術会議連携会員、同数理学委員会委員、日本数学会理事、同幾何学分会評議員ほか、多くの委員会活動を行い、日本の数学振興に貢献しています。



東北大学大学院理学研究科教授
ディステイングイッシュトプロフェッサー

小 谷 元 子

宇宙の地図を描く

幾何学=geometryは大地を計測する学問として始まりました。地球上を旅行することなど夢だった時代に未踏地の地図を描くための叡智でした。目に見えないものを見、実測できないものを測る方法を与えることが幾何学・数学の役割です。現在、宇宙は我々には到達できない場所ですが、その形を描く幾何の道具を紹介します。

人間の想像力は偉大です。大学で皆さんが出会う学問は多様で、個性的で、そして普遍的です。素朴な疑問や好奇心を追求することで、長い時間をかけて人類が積み上げてきた知識と知恵をしっかりと受け止め、自由な発想で新たな価値を付け加えてください。そのためのナビゲータが大学です。

$$p_n(x, y) \sim \frac{1}{(4\pi n)^{d/2}} e^{-\frac{d_0(x, y)^2}{4n}} (c_0 + \frac{c_1}{n} + \frac{c_2}{n^2} + \dots), \quad (n \rightarrow \infty)$$

図1.「中心極限定理」central limit theorem

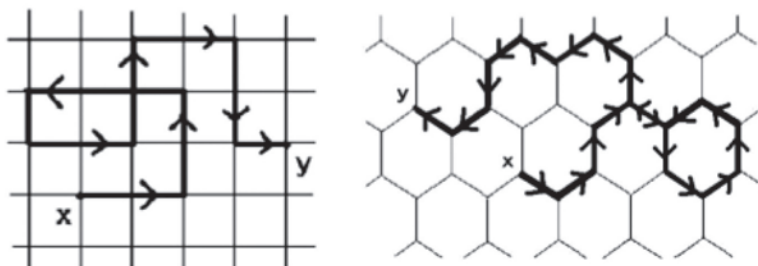


図2.「ランダム・ウォーク」random walk

東北大学 新入生歓迎セミナー

2009年4月7日 11:20～12:15



Takashi Kobayashi

講 | 師 | 紹 | 介

Profile

1957年、新潟県生まれ。東北大学で国語学を学び、大学院の博士課程に進みました。1983年、国立国語研究所言語変化研究部に研究員として着任し、日本語の方言文法について全国800地点を調査した『方言文法全国地図』を作成しました。1994年から東北大学に勤務し、大学院文学研究科日本語学講座の助教授を経て、現在、同講座の教授を務めています。専門は方言学で、特に、方言の視点から新たな日本語史の構築をめざす「方言学的日本語史」を提唱し、研究を行っています。その業績により、1986年には第11回「金田一京助博士記念賞」を、2004年には第23回「新村出賞」を受賞しました。また、『シリーズ方言学』全4巻(2006年～2007年、岩波書店)、『ガイドブック方言研究』(2003年、ひつじ書房)、『ガイドブック方言調査』(2007年、ひつじ書房)などの出版により方言学の体系化をめざすとともに、「週間ことばマガジン」(東日本放送)、「知ったか仙台弁」(東北放送)などの番組を通じて方言学の普及を行っています。



東北大学大学院文学研究科教授
ディステイングイッシュトプロフェッサー

こ ば や し た か し
小 林 隆

常識を問い直す ー方言から見た日本語の歴史ー

「こま(駒)」といえば馬の歌語、とても上品なことばです。係り結びの「こそ」は大昔の文法で、今はもう使われていません。……これ、本当でしょうか？ まちがいというつもりはありませんが、一般の庶民たちが使った「こま」はもっと実用的な意味でした。「こそ」もけって古臭い言い方でなく、今でも日常的に使っている地域が日本の中にあります。私たちが学ぶ古語や古文は、たいてい『源氏物語』や『枕草子』に出てくるものです。これは、京都の貴族や知識人たちが文章を書くために使ったことばと言えます。みなさん、そうしたことばを過去の日本語のすべてだと思い込んでいませんか。

大学で学ぶということは、これまで勉強してきた常識を、あらためて問い直すことから始まります。今日は、私の専門である方言学の立場から、日本語の歴史の当たり前を問い直してみようと思います。



図1. 私の研究室では、毎年、学生たちと方言調査に出かけています。これは、調査のひとコマです。

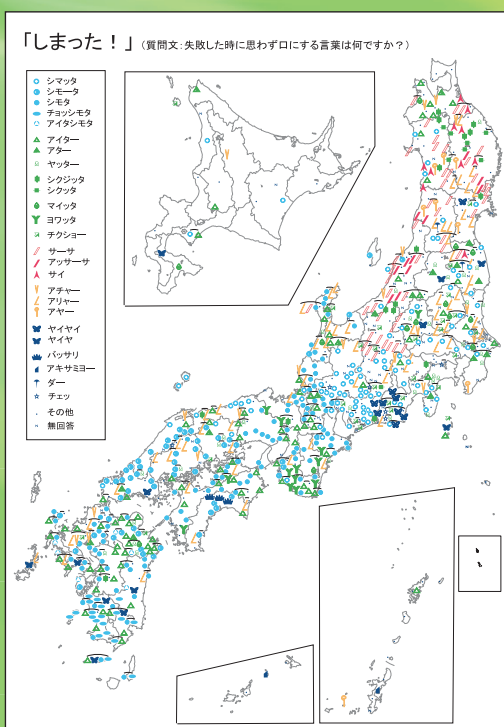


図2. 失敗したときの叫び声の方言地図です。こんな言葉にも、地域によって違いが見られます。